

## 全学共通教育「日本語」「日本事情」

「日本語」 日本語1、日本語2、日本語3、日本語4、日本語5、日本語6、日本語7、日本語8

平成20年度の共通教育の「日本語・日本事情」では、以下のクラスが開講された。

コーディネーター： 橋本 智

日本語1[前期] 石田愛

人数： 7名(アメリカ1名、韓国1名、中国2名、ベトナム1名、マレーシア2名)

使用教材： 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』、佐々木瑞枝他  
The Japan Times

本講義では、テキストを中心に各課のテーマに沿った内容を扱った。授業の流れとしては、まず学習する課のテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、会話練習や聴解、読解、要約、作文などの練習に入るという流れである。留学生が大学生活に慣れること、そして大学生活をしていく上で必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できるようになることを目標とした。そのためクラスでの活動は、留学生が実際に遭遇するだろうと思われる場面を設定して行った。

日本語2[後期] 石田愛

人数： 7名(韓国1名、アメリカ1名、台湾2名、マレーシア3名)

使用教材： 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』、佐々木瑞枝他  
The Japan Times

本講義では、テキストを中心に各課のテーマに沿った内容を扱った。授業では、まずテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、ゼミに入ったときの挨拶、スピーチ、ディベートなどの実践的な活動を行った。留学生が大学での様々な場面に対応できるように、実際の講義やゼミでの演習などを想定しながら、より実践的な表現や活動を取り入れた。また知識としての日本語ではなく、学んだことを実際の場面で生かせるように、場面を想定した練習と、それをフィードバックする機会を多くした。

日本語3[前期] 橋本智

人数： 8名(韓国1名、中国4名、マレーシア3名)

使用教材： 『留学生のための大学の授業へのパスポート』 丸山淳他 凡人社  
『聴解・発表ワークブック』 犬飼康弘 スリーエーネットワーク  
『語彙力ぐんぐん一日10分』 河野桐子他 スリーエーネットワーク

大学で講義を聴くときに必要なスキルを習得するために、大学の講義とは何か、どのように準備したり復習したりするのか、またどのように効果的にノートをとるのかを学習した。ノートテイキングの具体的な方法や、それをレポートにまとめる方法も学んだ。同時に、留学生に必要な語彙力を伸ばすために、ミニ講義の語彙だけでなく、カタカナ語や慣用句、擬態語・擬音語も覚えるように働きかけた。

#### 日本語4[後期] 橋本智

人数: 12名(中国3名、韓国4名、アメリカ1名、ベトナム2名、マレーシア2名)  
使用教材: なし

大学生活で必須の「レポート作成」を目標とした。全体のテーマは「災害と防災」である。まず書くための材料集めとして、徳島県防災センターへ行き、災害と防災に関する体験をし、講義を聴いた。また、新聞記事を読み理解を深めた。レポートの書き方の学習と平行して、学生各自の興味あるテーマを選び、調査を進めてレポートを完成させた。また、学習したことを他の人にも知らせるという目的で、学内の留学生に配る「防災パンフレット」も作成した。

#### 日本語5[前期] 大石寧子

人数: 5名(中国1名、マレーシア3名、韓国1名)  
使用教材: 「大学・大学院 留学生の日本語③論文読解編」アルク 抜粋、新聞、キャッチコピー

大学生活において円滑なコミュニケーション能力を図るために表現力(語彙力・文法力・文章構成力をつける。読解演習を入口とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」のそれぞれの技能を伸ばす様々なタスクを行った。最終的には、自分の思いや考えを最も的確に最小に表明する手段として、①自国②徳島大学または母国での大学③徳島の3つのキャッチコピーを作成した。

#### 日本語6[後期] 大石寧子

人数: 12名(中国3名、マレーシア2名、韓国4名、ベトナム1名、台湾2名)  
使用教材: 「ピアで学ぶ大学生活の日本語表現」ひつじ書房 他

大学生活で必要な「レポート作成」を最終到達とした。レポートの書き方の前に、短い文の中に必要最低限の情報を盛り込む練習として「メールの書き方」の練習を行った。お願い・誘い・お詫び・断りなどをテーマにし、作成上のルール、レイアウト、添付方法なども含めてメールの書き方を練習し、実際に宿題の提出をメールの添付で行った。その後論証型レポートの作成を目標とし、マッピングやピアワークでテーマを決め、それ以降もクラスのメンバー同士や地域日本人とのピアワークを通して論点の絞り込みを行い、書き進めていった。またデータの1つとして、アンケートの作成・取り方・集計の仕方もあるを学習した。

#### 日本語7[前期] 橋本智

人数 7名(中国3名 韓国1名、ベトナム1名、マレーシア2名)  
使用教材: 男女共同参画社会作り入門本『自分』徳島県、新聞記事など

四技能の向上を目指し、「ジェンダー」の視点から新聞記事などを読みレジュメを作ってその内容を発表したりディスカッションしたりした。また、ジェンダーに関するビデオを見たり、ジェンダーの考え方でアニメを分析したりして、実際の生活の中で見られる「ジェンダー」について話し合った。最後に、学生各自で関心のあるテーマを選び、パワーポイントとレジュメを使って口頭発表した。例として、「家庭の中の夫と妻の役割」「日本の若者の恋愛観とジェンダー意識」などがあつた。

## 日本語8[後期] 橋本智

人数: 6名(中国2名、ベトナム2名、韓国1名、アメリカ1名)

使用教材: 新聞記事、ニュース番組

「聞く、話す、読む、書く」の4技能を伸ばすために、「働く」をテーマに、様々な活動を行った。最近の日本の労働環境や問題点などを、新聞記事やニュース番組を通して学んだ。フリーター、ワーキングプア、ネットカフェ難民、余暇などの話題を取り上げた。また、自分の関心のあるテーマを考えて、質問紙を作り、日本人にアンケート調査を行い、それを口頭で発表した。

### 「日本事情」 日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ

#### 日本事情Ⅰ[前期] 坂田浩

人数: 12名(ベトナム2名、中国3名、マレーシア3名、アメリカ1名、韓国3名)

本授業では、(1)各都道府県の情報を提供することで、日本文化の多様性について学ぶ、(2)新聞記事を通して現代日本社会について学ぶ、という2点を主眼として授業を展開した。主な内容としては、(1)各都道府県の歴史、観光名所、特産物、方言などから、日本の多様性について学び、(2)新聞記事を通して、現代日本社会の諸問題ならびに最近の出来事について講義を行った。各授業の理解度についてはウィークリーレポートで確認することとした。

「日本がたくさんあるようで面白かった」、「いろんな所に旅行したいと思った」、「日本には日本なりの問題があって、社会背景に興味を持った」などの評価を得ることができた。

#### 日本事情Ⅱ[後期] 坂田浩

人数: 14名(ベトナム2名、中国3名、台湾2名、マレーシア3名、アメリカ1名、韓国3名)

本授業では、(1)現代日本における社会問題を知る、(2)徳島の基本的な地理情報ならびに地域性についてまなぶ、という2点を主眼として授業を展開した。主な内容としては、(1)新聞記事を通して、ワーキングプア、少子化、政治の混乱などについて、その問題ならびに社会背景について学ぶ、(2)徳島の基本的地理情報(市町村名ならびに位置)に関するテストを行い、徳島の地域性について講義を行った。各授業の理解度についてはウィークリーレポートで確認することとした。

学生からは、「これまでは社会背景が分からなかったので、新聞を読むことも出来なかったが、これからは積極的に読んでみたいと思う」、「徳島のことを詳しく知ることができて良かった」などの評価を得ることができた。

#### 日本事情Ⅲ[前期] 橋本智

人数: 5名(中国1名、韓国1名、アメリカ1名、ベトナム1名、マレーシア1名)

使用教材: 『実践「日本事情」入門』 細川英雄 大修館書店

日本の日常生活に見られる文化を学ぶことによって、日本および日本人について考え、学生自身が自分の問題として日本の現実を観察できる目を養うことを目標とした。授業では、日本人家族の生活に関するプリントや新聞記事を読んで、それについて自国の文化と比較しながら意見を述べ合った。

また、ゲストスピーカーをよんで日本人の生活に関する話を聞いた。最後に、自分でテーマを選び、クラスメイトに紹介したい日本文化をパワーポイントを使って口頭発表した。

#### 日本事情Ⅳ[後期] 橋本智

人数: 16名(中国1名、韓国4名、ベトナム2名、マレーシア4名、日本1名、ベトナム2名、台湾2名)

使用教材: 新聞記事、ゲストスピーカーによる作成教材

メインテーマを「徳島を知るー吉野川を通して」とし、徳島のシンボルである吉野川について、いろいろな視点からのゲストスピーカーの講義を受けると共に、自分達のテーマを決め、調査し、最終的に発表を行なった。ゲストスピーカーによる講義は以下のとおりである。①吉野川概要(国土交通省・鳥居覚)、②川の問題環境、新町川クルーズ(中村英雄)、③第十堰について(NPO 法人吉野川みんなの会・姫野雅義)、④吉野川流域の農業(徳島県立農林水産総合技術センター・喜田直康)、⑤住民運動と吉野川(総科・中嶋信)。

